

平成23年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教務	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生方の専門知識が豊富で授業内容に満足ができる」「授業の教え方や説明がわかりやすい」については、プラス評価がともに前年とほぼ同じく81%、78%と約8割を占めており、生徒が学習指導面で教員を信頼していることが伺える。 ・一方、評価については各教科が実施している多面的な評価に対してプラス評価とした回答が6割にとどまっており、ガイダンス等での説明、及び時期に応じた説明をさらに徹底していく必要がある。 ・個々の能力等に応じた指導をしているかについてはプラス評価が6割台である。習熟度授業や少人数授業が主に自然科学コースや理系の一部で実施されているので、数字はそのためか。 ・「総合的な学習の時間」についてはプラス評価が5%増し、62%になったが、3割近くがマイナス評価であり、今後も本校ならではの総合的な学習の時間の内容を研究しなければならない。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学習指導の充実を目指し、存在感・達成感をもたせる授業展開を研究する。 ◇日常的な教育活動の点検と評価活動の充実	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会を中心に「存在感・達成感をもたせる授業」をテーマとした校内研修を、学年会や教科会との連携のもと、企画委員会、職員会で周知徹底をはかり実施していく。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 公開授業・研究授業及び教科研究会の実施 (2) 授業評価アンケートの実施 (3) 生徒の進路希望を考慮したカリキュラム作成 (4) 少人数授業・習熟度授業の実施	(1) 生徒による授業評価および授業に関するアンケート (2) 各教科の模擬試験の目標設定値と達成度	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期2回に公開授業週間を実施。期間内に研究授業・教科研究会を実施 ・全教科において前期終了時に授業評価の実施 ・習熟度授業（自然科学コース）、少人数授業の実施 	①各教科内で活発に授業参観が実施され、研究授業後の教科研究会が有意義なものとして実施されたのか。 ②授業評価結果が授業改善へと生かされているのか。 ③習熟度授業・少人数授業が効果的に実施されているのか	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○「存在感・達成感をもたせる授業」をテーマに研修計画を立て、公開授業・研究授業を実施し、特に理科にあつては教育研修課の出前講座の中で「言語活動の充実」をテーマとした研修を実施した。他の教科においても授業改善に向けての研究に一定の成果があった。 ●上記において教科により内容の密度に偏りがあつた。教科研究会のあり方についての研究が今後の課題である。 ○全職員に生徒による授業評価を実施し、2クラス分を学習指導委員会に提出し、検討を実施した。 ●習熟度授業、少人数授業を昨年以上に実施したが、アンケート結果に見られるように、実施・効果は一部の生徒集団に限られている。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、自然科学コースを中心に習熟度授業や少人数授業を以前から実施しており、今後は可能な限り普通科コースでの実施も視野に入れていきたい。また、現在の授業内容や課題についてもさらなる研究が必要である。 ・学習評価については、数学・理科の新教育課程がスタートする中で、観点別評価を考慮した総合的な評価を多治見高校として確立する必要がある。生徒に対しても評価基準等を授業を通して説明し、生徒が自らを振り返り、自己を高め、次につながっていく評価基準・評価方法を考える必要がある。 	

2	評価する領域・分野	◇ 進路指導		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「適切な進路情報を示し、可能性を引き出そうとしているか」「生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われているか」の項目について、昨年と同様生徒の7割以上が高評価をしている。保護者の評価はやや下回るが、生徒を通じての配布物などの不徹底が原因の1つとしてあるかと考えられる。情報提供のあり方についてさらに研究が必要である。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇一人一人の生徒が自己を正しく理解し、自らの在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択・決定出来るようにする。 ◇多くの生徒が志望する国公立大学への合格を可能にする基礎学力を身につけられるように支援する。 ◇保護者に働きかけ、ともに育てる協力関係を作る。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年の進路指導部員を通じて情報交換に努め、学年会との連携を強化する。 ・週1回授業時間割内に設けた3年正担任会に進路指導部長も出席し、個別の志願状況をつかみ、今後の指導方針を検討する。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 授業姿勢の向上や宅習時間の充実 (2) 土曜補習の持ち方の検討、充実 (3) 進路説明会、進路講話の計画、開催 (4) 保護者体験談集の作成や大学見学会の充実 (5) インターン・シップや大学見学への参加を働きかける。	(1) 模擬試験データによる生徒の学力の分析 (2) 各種進路指導行事後のアンケート実施 (3) 入試結果から各生徒の目標達成度や学力の伸長度を測る。 (4) 看護体験やオープンキャンパスへの参加		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	・進路説明会等各学年3～6回実施。保護者向け各1回実施 ・保護者大学見学会、1・3年生大学見学の計画と実施 ・模擬試験の効果的な活用 ・総合的な学習の時間の活用（進路研究）	①生徒の学力伸長度・充実度 ②保護者の満足度 ③第一志望合格率	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11	成果・課題	○特に3年生の担任間での情報交換の機会が、ある程度確保できていた。 ○育友会から「進路説明会」「大学見学会」への参加が増えている。 ○進路情報「さか草」が進路意識高揚の一助にはなった。計画的刊行を目指す。また、さらに有効な進路情報を精選して発信するように努める。 ●自宅学習の充実が、特に質の面で不十分だった。 ●模試結果を活かす事後指導をさらに追求したい。 ●土曜補習、希望者補習への取り組みへの意識が薄れて来ていると感じる。		総合評価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・低学年から、生徒・保護者に向けて働きかけを強め、進路意識の啓発や向上に努める。 （早期に進路を決めたがるというような安易な進路選択を避け、より高い目標に向けて最後まで努力し粘る姿勢を養う。）1・2年生の学年担任との連携強化。 ・土曜補習や希望者補習について、教科の年間指導計画への位置づけを確認し生徒にも明示し、実施の意義を理解した上で達成感や充実感を持たせる指導を工夫していく。また、今後も一層効果的な運用を追求していく。 ・模擬試験の実施についても上記と同様。 ・教職経験の浅い担任や本校に着任間もない教員に、効果的な情報提示の仕方を工夫して情報提供を厚く行い、全校態勢での進路指導が円滑に行えるような支援をしていく。			

2	評価する領域・分野	◇生徒指導	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりにあった生徒指導ができていないという点が弱い 身だしなみ、マナー指導は特に保護者に意図、趣旨は理解されているようだが、実の身だしなみに表れていない。 交通安全、痴漢防止など評価は高いが、まだまだ改善の余地がある。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 学校生活における基本的な生活習慣とマナーの確立 情報の共有と協働による指導	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学年会、職員会議等での情報の共有、指導方針の共通認識 生徒指導部のリーダーシップ 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 月1回1週間「身だしなみ確認週間」を設定し、校門・登校指導での生徒への声かけ指導。(遅刻指導も含む) (2) 月2回、校外での交通安全指導 (3) 職員朝会を通して、その指導内容を担任から連絡、また学年集会、全校集会等での指導部の指導等、適切に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 本校職員の評価(部会やアンケート等) (2) 外部会議や、育友会会議などで意見・評価の吸収。 	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> 各学年計画的に月1度の「身だしなみ確認週間」で校門・登校指導を生徒指導部と共に実施。 「身だしなみ確認週間」の1週間「身だしなみチェックシート」を利用し、自らの身だしなみをチェック。 校外での「交通安全指導」での生徒の登校状況の確認、指導。 昇降口での遅刻防止指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ① その場で生徒の服装を正せるか。教員が声かけできるか。適切に服装を着こなしている生徒は増えたか。 ② 事故の件数が減ったか。遅刻者数は減ったか等。 ③ 学年会・生徒指導部・職員会議、あるいは父兄外部評価アンケート等での意見・評価。 	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
11	成果・課題	総合評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員が「身だしなみ」について課題意識を持ち、登校指導で、生徒を指導する機会が増えた。 ○遅刻者数、交通事故等も減り、全体的に落ち着いた雰囲気の中、学校生活を送れている。 ●教職員の中でも「身だしなみ」指導に関して様々な点で温度差があり、全職員同一歩調で進めることができていない。基準・規則をもう一度見直す必要がある。また生徒指導部のリーダーシップも欠けていた点もあり反省したい。 	<p>A B C D</p>	
12	来年度に向けての改善方策案		
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き本年度も「身だしなみ指導」に力を入れたが、時間の経過と共に戻つぽみ状態となっていた。生徒指導部のリーダーシップの欠如もあるが、組織的に職員を動かすシステムがないことであると感じた。来年度は他校が行っている身だしなみカード(イエローカード)等の意見も出たが、学年会での検討の結果、現在のところ積極的ではない状況である。ただ何かしらしっかりと具体的な方法、共通意識が必要である。幸い入学生より制服をマイナーチェンジすることもあり、この大きな機会を生かしていきたい。“遅刻者数の減少”は学校に落ち着いた雰囲気をもたらしているが、来年度はさらに積極的に“あいさつ”運動にも力を入れる具体案を考えていきたい。 		

2	評価する領域・分野	◇ 特別活動		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「生徒会活動」へのプラス評価は6ポイント増加したが、マイナス評価が約3割と、相変わらず多い。 ・「学校行事」や「部活動」は満足度が高いが、「ボランティア」の満足度が低い。保護者では「わからない」が3割を占めている。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 学校行事やホームルーム活動を通して、生徒一人一人が他人の個性を尊重しつつ自分の個性を生かせるように支援をする。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動を活発にするために、他の分掌や学年との連携を強化する。 ・部活動の活性化のために、体育科や部顧問との協力体制をさらに充実させる。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<p>(1) 生徒会執行部の個性を生かせるように、環境を整える。</p> <p>(2) 生徒会や部活動が活動しやすいよう、現状に合わない規約や内規を見直す。</p>	<p>(1) 生徒会執行部による発案や自主的な活動ができたか。</p> <p>(2) 部活動への参加者は増加したか。実績は上がったか。</p>		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部を中心とした、生徒同士の連携の強化。 ・委員会や部活動に関する内規の見直し。 ・学校行事で、クラスや個人の個性的な取り組みを評価する。 	<p>①生徒会執行部からの発案や積極的な取り組み。</p> <p>②部活動への参加と実績。</p> <p>③委員会の活動実績。</p> <p>④充実した学校行事。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>	
11	成果・課題	総合評価		
	<ul style="list-style-type: none"> ○震災の募金活動や桔梗祭での執行部企画、DVDの販売など執行部からの発案や自主的な取り組みが多く見られた。 ○陸上部、水泳部を中心に全国レベルの選手が育っている。他の部活動も、県大会や地区大会で前年度以上の活躍が見られた。 ○新しく「スポーツ交流大会」が5月に加わったが、体育科の協力によりクラスづくりに貢献できた。桔梗祭、球技大会も例年と同様に充実した。 ●生活委員会や美化委員会などは、新しく独自の活動を始めることができたが、生徒自身による積極的な活動やホームルームでの委員会の活躍があまりできなかった。 ●ボランティア参加者は微増したが、全体的な気運を高めるまでには至っていない。 	<p>A Ⓑ C D</p>		
12	来年度に向けての改善方策案			
	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長会議などにより委員会の予算を各委員に明示し、施行させることにより、委員会を活発にする。 ・ボランティアの募集を、昼の放送などを利用して、さらに全校的なものにしていく。 ・部活動の合宿規定をさらに見直し合宿を行いやすい環境を整え、部活動全体の更なる活性化を図る。 ・スポーツ交流大会の計画を早い段階で生徒会執行部へ下ろして、積極的に準備させる必要がある。 			

2	評価する領域・分野	◇保健厚生		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・大震災により、生徒の防災意識も高く、防災避難訓練等の指導が生徒に浸透しつつある。 ・交通事故や不審者対策等の安全指導については、学年、クラス等の小集団で指導を徹底し、保護者にも理解が得られるように工夫する必要がある。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇防災訓練、防犯・交通講話等を通して、健康被害や事件及び事故災害の未然防止に万全を期し、防災体制の見直しを含めその徹底を図る。 ◇安全で快適な学習環境の整備を行い、清掃活動や整理整頓の徹底を図る。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災等マニュアル」の見直しと理解徹底を図る。 ・全職員、全校生徒による清掃美化の徹底と大掃除における安全点検を実施する。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 防災避難訓練や防犯・交通講話等の実施 (2) 全校清掃の徹底と生徒委員会による環境点検の実施	(1) 本校職員による評価（アンケート） (2) 外部訪問者による意見収集		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災等マニュアル」の配付 ・大掃除における安全点検と生徒委員会による点検の実施 ・救急救命講習の実施 	①防災避難訓練時等の様子 ②安全点検報告や生徒委員会による巡回 ③消防署職員の講評	A (B) C D A (B) C D (A) B C D	
11	成果 課題	○大震災により職員、生徒ともに防災意識が高く、2回行われた防災避難訓練については、とても意欲的に行われた。 ○救急救命講習は毎年行われているが、生徒の危機管理、安全管理の意識高揚につながっており、大きな事故等は起きていない。 ●清掃指導が十分に図られていないためか、清掃美化、安全点検の点で物足りなさを感じる。生徒委員会の環境点検も含めて、よりよい方法を検討する必要がある。		総合評価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 職員による清掃指導が徹底できるように、適切な清掃区域と人員配置を行う。また職員が清掃指導しやすいように統一した「清掃マニュアル」を作成し、粘り強い指導に努める。 大震災や豪雨災害の経験を踏まえ、職員の安全管理、危機管理意識を高めるための防災等マニュアルの配付と研修会を開催する。また職員間で報告・連絡・相談ができる雰囲気作りに努め、生徒の安全を最優先に指導徹底したい。			

【意見・要望・評価等】

<教務・学習指導>

- ・基礎学力・応用力を身に付けるための授業の充実が図られている。早朝学習や土曜補習等生徒の学力向上のために努力している。
- ・家庭学習や小テスト、補習等を通して、学習に向かう姿勢づくりができています。塾に行く必要がないほど、日常の指導がしっかりしている。
- ・学習時間の充実という方策は見えているが、授業改善が見えづらい。

<進路指導>

- ・進路指導が充実してきており、担任を中心に一人一人にあった進路を考えてもらえる。
- ・進学校としてのステータスができつつある。1年時から先を見据えて進路指導しているため、国公立・有名私立大学に継続して合格している。
- ・進路指導の現状をさらに外部に発信できるとよい。

<生徒指導>

- ・素直な生徒が多く、どの生徒も楽しい生活が送れている。
- ・身だしなみについては、以前より改善されているが、一部の生徒の服装が乱れたままになっている。
- ・中学校を訪ねてくる生徒はとても礼儀正しい。

<特別活動>

- ・部活動の成績にも表れているが、文武両立を目指して生徒たちもよく頑張っていると思う。
- ・学校内で個人の活躍や能力をアピールする場が用意されており、良いことである。

<自然科学コース課題研究>

- ・自然科学コース独自のこの取組は、生徒の自信にもつながり幸せなことだと思う。他校にはないこのような取組を大切に継続してほしい。
- ・パソコン技術、プレゼンテーションは社会人としても通用するぐらいのレベルである。これからの若い世代が世の中の速い流れに対応するには必要な能力・技術である。
- ・生徒の発想を受け止めて指導するのはたいへんと思うが、生徒には貴重な経験になるだろう。
- ・自然科学コースだけでなく、普通科の生徒も例えば文学について調べて発表するなどの場があっても良いと思う。
- ・自然科学コースの魅力をさらに訴えると良い。